

異文化をもつ人々を理解するための国際看護教育

International nursing education for understand of people with different cultures

○小田雅恵¹, マリアフランシスカ²

Masae Oda, Maria fransiska

1 帝京平成大学, 2 ゆりなメディカルパーク

Teikyo Heisei University, Yurina Medical Park

【はじめに】

近年、日本を訪れる外国人や在留外国人の増加に伴い、異文化を考慮した看護を提供しなければならない場面が多くみられるようになった。また2008年から経済連携協定により外国人看護師の受け入れが開始になったことで、締結前に比べ日本で外国出身の看護師と働く可能性をより意識する必要がある。このような状況から外国人や彼らの背景にある異文化を理解することが求められ、国内でも国際的な視野を持って看護を実践することが求められつつある。

本学看護学科では、国際看護の授業において、異文化を背景にもつ人々を理解するための学習として、外国人との交流を取り入れた授業を実施しているため、その授業の取り組みの一つについて報告をする。

【方法】

授業は2022年6月15日の第6回目 国際看護学(1単位)で実施し、日本人教員およびインドネシア人外国人看護師(以下外国人講師)で担当する。授業対象者は看護学科3年生112名である。

この授業では日本で働く外国人看護師の抱える問題や就労時の留意点を知るとともに、日本の外国人患者受入れの現状を把握すること、また異文化を背景にもつ人々への理解を深め、文化的背景の相違に配慮した看護を考えることができることを目的とした。授業構成は、1)外国人看護師との就労、2)日本での外国人患者受入れの現状、3)外国人看護師の話、4)外国人へのインタビューおよびグループワークとし、講義と交流をはかる形式で行う。また、事前学習として、関心のあるインドネシアの文化および日本に在住している外国人看護師の現状について学習し、予備知識をはかる。

倫理的配慮として、授業を受講した学生個人が特定されないように記述内容に配慮をする。

【結果】

授業は、外国人講師がEPAを活用して渡日したことやインドネシア出身であるため、インドネシアの事例紹介や体験談も交えながら実施した。

1. 日本で就労する外国人看護師

外国人が日本で看護職として就労するための要件や経済連携協定で来日した外国人看護師の現状、外国人との働き方の価値観の違いについて講義する。日本との看護教育の相違点や看護師の役割の違い、外国での就労には語学の壁があること、また、多くの日本人のサポートが必要であることを伝える。

2. 在留外国人の健康問題

外国人の特徴的な健康問題として、気候や社会・文化的な環境変化により健康問題が発生すること、コミュニケーションや保険システムの問題により病院へのアクセスを困難にさせることを学び、外国人患者受け入れに関する日本の取り組みについて講義する。また列島地域からなるインドネシアの医療の地域格差や保健医療システム、熱帯地域の特徴的疾患、伝統的なケアなど、インドネシアの事例を用いて日本との比較をしながら健康問題について考える機会を作る。

3. 異文化への理解

異文化については、コミュニケーション・食・宗教・ライフスタイルの儀式・家族観などを中心に、画像を用いてインドネシア文化を紹介する。特に宗教については、インドネシア人の多くがイスラム教で、ハラールフードや断食、拝礼・ムスリム男児の割礼の慣習など、日本にはない宗教文化と価値観について説明をする。また結婚に関する価値観については、親族間の長老者の意見が重視されるなど、家族のあり方についても日本とは差異があることを伝える。

4. 外国人講師との交流

外国人講師へのインタビューは、課題についてグループワーク中の学生に対し、外国人講師が友好的に接し行われた。このことは会話をしやすい環境を作り、学生が事前学習した内容を容易に質問でき、積極的に交流を図る場面へとつながった。またインドネシアの食材や薬剤、民族衣装などインドネシア文化に直接触れる機会を作ったことも学生が能動的に学ぶ姿勢につながった。時間的な関係で全ての学生が十分な交流が図れていないとはいえないが、外国人と距離を縮めた交流は、異文化への関心を高めたようである。

【まとめ】

外国人との交流や外国に訪問歴のない学生が多い中、実際の交流や事例を用いた講義を行ったことで、外国人の特性や異文化について知る機会となり、印象付ける授業になった。異文化をもつ人々を理解するための入口として、この授業は意義あるものであったと考える。今後も文化的背景を考慮した看護、外国人への個々にそったケア、異文化看護につながる授業への取り組みを続けていきたい。